

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 18 日現在

機関番号：11601

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H01342

研究課題名（和文）国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義 東北地方を中心に

研究課題名（英文）Redefining the Interrelationship between the Yamato Government and Local Powers during the State Formation Process in Japanese Archipelago : Focusing on Northern Honshu Island

研究代表者

菊地 芳朗（KIKUCHI, Yoshio）

福島大学・行政政策学類・教授

研究者番号：10375347

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、古墳文化の北縁に位置しこれまでほとんど顧みられることがなかった東北地方の古墳・遺跡とその出土遺物を主な対象に、ヤマト政権と各地の政治権力との相互関係に関する従来の見解を再定義することを目的に実施した。さらに東北特有の地理的・歴史的条件を踏まえ、古墳がつくられた意味そのものに迫ることを目指した。

本研究では、福島県須賀川市団子山古墳と前田川大塚古墳の発掘調査、秋田県横手市大塚遺跡と福島県須賀川市大仏古墳群の測量調査を実施し、ヤマト政権と東北の地域権力の関係を追究する材料を獲得した。そしてこれらの成果を踏まえ、2023年3月に本研究を総括する公開シンポジウムを実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、古墳分布の北縁に位置する東北を舞台として、新たな遺跡への調査の実施や、既存資料の再検討等をふまえた実証的な調査研究分析をつうじ、ヤマトと各地域の政治権力との関係に迫ろうとしたものである。これにあたっては、対象を古墳時代の特定の時期、遺構、遺物にかぎるのではなく、多角的かつ重層的に解明することを目指した。

本研究によって、古墳時代におけるヤマトと東北の相互関係に迫る多くの成果がえられたが、全容解明にはなお多くの調査研究の積み重ねを必要とする。本研究の成果およびここから生じた新たな問題の追究をもとに、古墳時代におけるヤマトと各地域権力の関係究明にさらに努める。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted to redefine the conventional view of the interrelationship between the Yamato Government and local powers, focusing mainly on mounded tombs and archaeological sites and their artifacts in the Tohoku region, which is located at the northern edge of the Kofun Culture and has been largely neglected until now. Furthermore, this study aimed to approach the meaning of mounded tombs in light of the geographical and historical conditions peculiar to the Tohoku region.

In this study, we conducted excavation surveys of the Dangoyama Tomb and Maedagawa-Otsuka Tomb in Sukagawa City, Fukushima, and survey of the Otsuka site in Yokote City, Akita and the Daibutsu tombs in Sukagawa City, to obtain materials to pursue the relationship between the Yamato Government and local powers in the Tohoku region. Based on these results, we held a public symposium in March 2023 to summarize this research.

研究分野：考古学

キーワード：国家形成期 ヤマト政権 地域権力 相互関係 東北地方

1. 研究開始当初の背景

本研究は、日本列島各地に古墳が成立する重要な契機になったと考えられるヤマト政権（「大和政権」「倭政権」等と呼ばれることもある。以下「ヤマト」とする）と各政治権力との相互関係について、新規に獲得する実証的調査研究成果と最新の調査研究をもとに、この問題の究明を目指し実施したものである。

これにあたり、古墳文化の北縁に位置し、これまでほとんど顧みられることがなかった東北の古墳・遺跡とその出土遺物を主な対象として、従来の見解を再検討するとともに、東北特有の地理的・歴史的条件を踏まえ、古墳がつけられた意味そのものや日本列島の国家形成の特質にも迫ることを目指した。

東北は、現在の行政区分における青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の6県にほぼ相当する。ただし、東北において古墳文化に相当する考古資料が面的に分布するのは、その全域でなく、おもに宮城・山形・福島の3県にあたる南部の地域である。東北北部にも古墳文化の遺構・遺物が確認できるものの、特定時期に集中するか点的に分布することが特徴である。

東北には、古墳時代前期から終末期まで数多くの古墳時代遺跡が存在するが、近年の調査研究にもとづくと、その動向には以下のような特徴的な様相が認められる。

弥生時代に厚葬墓が認められないにもかかわらず、前期後半に最大規模の古墳が各地で築造されるが、中期前半には一転して非常に少なくなり、中期後半には再度活発化して分布範囲が最大となるなど、急激な発展や断絶を繰り返す不安定な動向をみせた。

古墳文化を展開させる大きな要因となった地域間交流の主要ルートは、前期の福島県会津と北陸、中期の福島県中通りと北関東のように、時期・地域により大きく変化した。東南北部を北限とする古墳文化は、東北北部以北に広がる縄文文化と密な交流を行っていた。両文化は特定の境界を挟んで対峙するのではなく、宮城県北部付近を中心として双方に属する遺構・遺物が複雑に入り組むあり方をみせ、それが時期によって変化した。

以上のように、東北の古墳文化は、極めて動的かつ複雑なあり方で推移することが判明しつつあるが、未調査や未報告のため年代等の基礎的な情報に欠ける古墳や遺跡が多いことなどにより、その詳細と背景には、なお不明な部分が少なからず残されている。

この問題意識のもと、ヤマトと地域権力の相互関係を改めて定義しようとする場合、従来とは異なる地域を対象とする通時的なケーススタディが有効である。そのうえで東北は、古墳文化の北縁にあって古墳や古墳文化とは何かという根源的問題に迫るために鍵を握る地域であり、近年の調査研究によりこの問題を追究するための材料も増加している。一方で、再定義の基礎となるべき重要遺跡・遺物に関する情報に少なくない不足がみられ、新たな検討材料を獲得しつつ実施する実証的調査研究により、この状況を打開することが必要である。

2. 研究の目的

以上の現状と認識にもとづき、本研究の目標として次の3点を掲げた。

東北の古墳時代遺跡・遺物に対するフィールド調査の実施により、ヤマトと地域権力の相互関係を解明するための新たな材料を獲得する。

東北と近畿の古墳時代に精通する第一線の研究者を結集しつつ調査分析を進め、その成果と課題を共有議論することにより、両権力の相互関係に関する新たな理解を提示する。

上記成果を特定地域間のケーススタディにとどめることなく日本列島全域への普遍化を図り、古墳時代研究および国家形成研究の新たな展開を目指す。

この目的を達成するため、本研究では、具体的に以下の三つの研究テーマに取り組んだ。

テーマ1 フィールド調査 ヤマトと地域権力の相互関係を解明するため、重要な位置を占めると考えられながら実態等が不明確な東北の古墳に対するフィールド調査を行う。

テーマ2 既存重要資料の整理・再検討 ヤマトと東北の地域権力の相互関係に遺物面から迫るため、十分な整理報告がなされていない東北の遺跡出土遺物の整理及び再検討を行う。

テーマ3 相互関係再定義のための比較分析 上記2 テーマの成果を踏まえ、ヤマトと東北の地域権力の相互関係の実態とその変化を顕著に示す遺構・遺物の実証的調査分析を行い、研究集会で討論する。

上記目的にしたがい、本研究は以下のメンバーを組織し、総勢8名で推進した。

研究代表者 菊地芳朗（福島大学・行政政策学類・教授）

研究分担者 石橋 宏（東北大学・埋蔵文化財調査室・専門職員）

上田直弥（大阪大学・埋蔵文化財調査室・助教）

福永伸哉（大阪大学・大学院人文学研究科・教授）

藤澤 敦（東北大学・学術資源研究公開センター・教授）

柳沼賢治（福島大学・地域未来デザインセンター・客員教授）

研究協力者 青山博樹（公財福島県文化振興財団・遺跡調査部調査課・副主任幹）

草野潤平（公財山形県埋蔵文化財センター・主任調査研究員）

また、福島県須賀川市団子山古墳の発掘調査、同須賀川市大仏古墳群の測量調査、同須賀川市前田川大塚古墳の測量調査および発掘調査、宮城県大崎市亀井困横穴群の出土遺物調査には、福島大学の学生および卒業生の参加と支援を受けた。

3. 研究の方法

上記の目的・課題・組織にもとづき、本研究では具体的に以下の調査研究を実施した。

フィールド調査では、福島県須賀川市と福島大学行政政策学類考古学研究室の共同調査として2020・21年夏季に須賀川市団子山古墳の発掘調査を実施し、福島大学行政政策学類考古学研究室の自主調査として2021年春季に秋田県横手市「大塚」の測量調査、2022年・2023年春季に福島県須賀川市大仏古墳群の測量調査、2022年夏季に福島県須賀川市前田川大塚古墳の発掘調査を実施し、これらについては、成果をすでに公表している。

既存重要資料の整理分析では、2020年度に宮城県大崎市松山亀井困横穴群の出土遺物調査を実施し（参加者：菊地、柳沼、青山、福島大学考古学研究室学生）。また、各研究メンバーは、担当する古墳時代遺構・遺物の調査と再検討を随時進め、後述する研究集会等で発表・報告した。相互関係再定義のための比較分析では、上記二つのテーマ研究の成果をメンバーで共有するとともに、研究計画の点検や修正・改善を検討するため、全6回の研究集会を開催した。

しかし、2020年初頭から世界で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、本研究にも大きな影響をおよぼし、特に2020年度は文化財保管施設や博物館等における資料調査の受け入れ等に大きな制限がかかる事態となった。これにより、予定していた調査等の多くが中止や延期を余儀なくされた。

研究集会は当初は対面で行う予定であり、これにあわせ関連する遺跡巡検や地元研究者による研究発表等も計画していたが、波状に到来する感染症によって開催が困難となり、研究メンバーのみによるオンライン方式の集会として実施せざるをえなかった。2021年ごろからはオンライン方式の研究集会が軌道に乗ったものの、全メンバーが対面で集合し時間をかけて意見交

換する機会をもてなかったことは、やはり残念であったといわねばならない。研究の総括の機会となるシンポジウムを公開対面で実施できることが、せめてもの幸いである。

以上3か年の調査研究の成果は、論文や報告書で公表するとともに、それらを総括する成果報告書を刊行している。

4. 研究成果

日本列島の古墳成立期において、ヤマトと各地域の政治権力との関係はいかなるものであったかという問題は、早くから学界の高い関心を集めてきた。古くは「支配 従属」や「派遣將軍」など、ヤマトの強い力を認める考えが主流だったが、古墳副葬品や各地の集落・生産等にかんする調査研究の進展、あるいは古墳時代初頭前後のヤマトそのものの実態が判明するにつれ、従来の理解に対する疑念が出されるようになり、近年では、ヤマトの力を相対的に低くとらえ、地域権力の自主的な政治経済活動を重視する考えが中心となっている。

ただし、こういった“地域主体”の理解だけでは、ヤマトに一貫して列島最大規模の前方後円墳が存在した一方、各地にヤマトの古墳規模や副葬品をスケールダウンしたかのような古墳が築かれたことに対する蓋然性の高い説明をすることが容易ではない。また、このような社会を国家形成過程のなかでいかに位置づけるかという点も大きな課題として残されている。そのため、最新の調査研究成果にもとづきつつ、ヤマトの一方的強制でも、地域の主体性のみでもない、まさに相互の関係の実態把握をつうじ、この問題に迫ることが求められていた。

以上の現状把握と問題意識にもとづき、本研究は、古墳分布の北縁に位置する東北を中心的な舞台として、新たな遺跡に対する調査の実施や、既存資料の再検討等をふまえた実証的な調査研究分析をつうじ、この問題に迫ろうとしたものである。ただし、たんなる東北の地域研究にとどまることのないよう、メンバーとして研究の第一線にある近畿在住の研究者に参画いただくとともに、他のメンバーには東北外の地域をたえず視野に入れることを念頭に入れ研究を進めていただいた。また、これにあたっては、調査研究の対象を古墳時代のなかの特定の時期、遺構、遺物にかぎるのではなく、研究メンバーの広い専門研究や問題関心をもとに、多角的かつ重層的に解明することを目指すことにした。その対象は、古墳の成立、埋葬施設（竪穴系、横穴系）、地域社会、集落、埴輪など多岐にわたる。その成果は、刊行した研究成果報告書で詳細に論じている。

本研究によって、古墳時代におけるヤマトと東北の相互関係に迫る多くの成果がえられたと考えられるが、その全容解明にはなお多くの調査研究の積み重ねを必要とすることも事実である。本研究の成果およびここから生じた新たな問題の追究をもとに、古墳時代におけるヤマトと各地域権力の関係究明、および古墳時代そのものをとらえるための研究の推進にいつそう努めてゆく所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 菊地芳朗	4. 巻 なし
2. 論文標題 団子山古墳2021年調査の成果と意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 団子山古墳9・横手大塚	6. 最初と最後の頁 29-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 菊地芳朗	4. 巻 なし
2. 論文標題 大塚測量調査の成果と意義	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 団子山古墳9・横手大塚	6. 最初と最後の頁 48-51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 74巻
2. 論文標題 武寧王陵出土鏡の系譜と年代	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 百済研究	6. 最初と最後の頁 24-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 42号
2. 論文標題 ヤマト政権の誕生と三角縁神獣鏡	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大分県立歴史博物館紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 第32集
2. 論文標題 竪穴式石室における隅部処理様相の基礎的検討	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 古代吉備	6. 最初と最後の頁 26-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 6
2. 論文標題 待兼山1号墳出土腕輪形石製品と待兼山周辺の前期古墳	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 大阪大学埋蔵文化財調査室年報	6. 最初と最後の頁 28-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地芳朗	4. 巻 第22号
2. 論文標題 東北の古墳時代中期 埋葬施設と副葬品を中心に	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宮城考古学	6. 最初と最後の頁 85-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地芳朗・菅野和博	4. 巻 無
2. 論文標題 東日本における前期埴輪樹立古墳の研究 福島県須賀川市団子山古墳の調査をもとに	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本考古学協会第86回総会研究発表要旨	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊地芳朗	4. 巻 無
2. 論文標題 北と繋がる陸水の道 古墳時代前半期の東北と北関東	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 磯浜古墳群へ続く道 シンポジウム発表資料集	6. 最初と最後の頁 27-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 上田直弥	4. 巻 387号
2. 論文標題 墳墓構造からみた摂津前期古墳の特質	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 つどい	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 72巻2号
2. 論文標題 世界遺産に登録された百舌鳥・古市古墳群	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 古代文化	6. 最初と最後の頁 96-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 福永伸哉	4. 巻 無
2. 論文標題 大垣市東町田墳墓群からの着想	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 昼飯の丘に集う - 中井正幸さん還暦記念論集 -	6. 最初と最後の頁 161-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 菊地芳朗
2. 発表標題 団子山発掘調査の10年
3. 学会等名 令和3年度団子山古墳発掘調査成果報告会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 菊地芳朗・管野和博
2. 発表標題 東日本における前期埴輪樹立古墳の研究 福島県須賀川市団子山古墳の調査をもとに
3. 学会等名 日本考古学協会第86回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 菊地芳朗
2. 発表標題 北縁の古墳文化とその交流 横手盆地を中心に
3. 学会等名 沼柵公開講座 北縁の古墳文化とその交流 横手盆地を中心に（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上田直弥
2. 発表標題 考古学で“権力”はどこまで掘れるか 古墳時代石製品を中心に
3. 学会等名 第2回「考古学」大勉強会 行為と構造
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福永伸哉
2. 発表標題 王陵交流の考古学
3. 学会等名 公開講座<王陵の比較研究>(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 福永伸哉
2. 発表標題 百舌鳥・古市古墳群 - その実像と歴史に迫る -
3. 学会等名 土木学会関西支部2020FCCフォーラム(招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 柳沼賢治
2. 発表標題 古墳時代の時代区分と土器
3. 学会等名 令和2年度(第9回)後三年合戦沼柵公開講座 北縁の古墳文化とその交流 横手盆地を中心に (招待講演)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 菊地芳朗・菅野和恵(編)	4. 発行年 2022年
2. 出版社 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室	5. 総ページ数 54
3. 書名 団子山古墳9・横手大塚	

1. 著者名 菊地芳朗編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室	5. 総ページ数 56
3. 書名 団子山古墳7・四穂田古墳1	

1. 著者名 菊地芳朗・千田優編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室	5. 総ページ数 54
3. 書名 前田川大塚古墳1・大仏古墳群1	

1. 著者名 菊地芳朗・千田優・伊藤冴恵・神山裕理編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 福島大学行政政策学類・福島大学行政政策学類考古学研究室	5. 総ページ数 40
3. 書名 前田川大塚古墳2・大仏古墳群2	

1. 著者名 菊地芳朗編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 福島大学行政政策学類	5. 総ページ数 82
3. 書名 国家形成期におけるヤマト政権と地域権力の相互関係の再定義 東北地方を中心に	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤澤 敦 (Fujisawa Atsushi) (00238560)	東北大学・学術資源研究公開センター・教授 (11301)	
研究分担者	石橋 宏 (Ishibashi Hiroshi) (30755509)	東北大学・埋蔵文化財調査室・専門職員 (11301)	
研究分担者	福永 伸哉 (Fukunaga Shin'ya) (50189958)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	柳沼 賢治 (Yaginuma Kenji) (60783074)	福島大学・地域未来デザインセンター・客員教授 (11601)	
研究分担者	上田 直弥 (Ueda Naoya) (70823780)	大阪大学・文学研究科・助教 (14401)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	青山 博樹 (Aoyama Hiroki)		
研究協力者	草野 潤平 (Kusano Junpei)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------